

科目名	失語症 I			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	15回	時間数	30時間 (1単位)	配当学年・時期	言語聴覚士科1年	必修・選択	必修
〔授業の目的・ねらい〕							
失語症について医学的観点からその基礎となる領域について学ぶ。							
〔授業全体の内容の概要〕							
失語症について医学的観点からその基礎となる領域について学ぶ。							
〔講師の実務経験〕							
〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕							
失語症についての基礎的な知識を習得する。言語症状の把握や有効なコミュニケーション手段を考え、失語症者の心理的問題を浮き彫りにする。心理的なアプローチに加え、言語訓練に必要な評価や高次脳機能障害、家族関係などの問題も検討する。							
回数	講義内容						
1	失語症とは(その障害の特徴)						
2	失語症の歴史、失語症と関連の深い脳の仕組み、精神の働きと脳の領域						
3	失語症の診断、失語症の分類						
4	脳卒中について、リハビリの原則、言語治療とは、言語治療の流れ						
5	心理的な問題、失語症にみられる主な言語症状						
6	失語症者に対する接し方、失語症者に対する訓練の実際						
7	失語症の原因となる脳の病気						
8	Broca失語について、発語失行について						
9	Wernicke失語について						
10	伝導失語について、ウェルニッケ・リヒトハイムの失語図式について						
11	全失語、超皮質性運動失語、超皮質性感覚失語について						
12	混合性超皮質性失語、健忘失語について						
13	VTRを見て言語症状把握、失語のタイプを分類する						
14	失語に関係のある検査について(特にSLTA、WABなど)						
15	失語症の評価、今後の訓練方針、家族指導など						
【 準備学習・時間外学習 】							
【 使用テキスト 】							
書籍名		著者名		出版社			
標準言語聴覚障害学 失語症学 第2版				医学書院			
【 単位認定の方法及び基準(試験やレポート評価基準など) 】							
試験の結果を100点満点として成績を評価する。試験は定期試験のみ実施とし、60点以上の場合に科目を認定する。							